関西の大動脈を、
次代へ引き継ぐ。

RECRUIT GUIDE

西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
〒567-0032　大阪府茨木市西駅前町5番26号

みち、ひと…未来へ。
NEXCO
エンジニアリング関西

スーパーホームドクターとして

RECRUIT CONCEPT

日本初の高速道路である名神高速道路が開通し、既に半世紀余り。人間と同じように道路構造物にも経年劣化が生じ、「つくる」から「守る」ことへの重要性が叫ばれています。人が生まれた時からかかりつけ医に健康診断をしてもらうように、道路を建設時から見守り続けているのが、保全業務のスペシャリストである私たち。技術力を駆使し、ホームドクターを超えた「スーパーホームドクター」という誇りを胸に、日々カルテを積み重ねながら健康で安全な状態を保つことに力を注いでいます。NEXCO西日本グループの価値観を共有し、常に新しい技術を追求しながら高い要求へと立ち向かうことをミッションとしています。



EXPANSION of the FIELD

関西一円に拡がる活躍フィールド

「お客様に100%の安全・安心な道路サービスを提供する」というNEXCO西日本と同じ志を掲げ、責任を分かち合う「カウンターパート」として事業を展開。関西一円に及ぶ物流と経済の大動脈が私たちのフィールドです。グループの総合力を活かし、交通インフラの未来を見つめながら地域社会の発展に貢献しています。



管理延長 905.8km
建 設 中 105.2km（4車線化含む）
★ 本社　★ 事務所・制御室

事業内容 BUSINESS LINEUP

4事業を柱に、確かな技術で高速道路を見守る

【保全管理・調査設計】【技術開発】【知的創造】【IT推進】の4つの事業領域を柱に、安全・安心・良質のサービスを提供。高速道路建設当時から蓄積された豊富なデータをもとに、ハイレベルな技術力を駆使して社会の要求に応えています。

保全管理・調査設計 土木 施設

高速道路とそれに付帯する施設設備を日々点検し、各部署が互いに連携しながら計画的に予防保全を行なっています。劣化診断、補修提案、調査、非破壊検査などにトータルに取り組み、利用者と周辺地域の安全を守っています。



技術開発

交通規制内作業、災害時等の対応も考慮した標識車を開発。集中工事等の対策として、女性の意見を取り入れた高環境・清潔な簡易トイレを設置、休憩スペースの確保「危険さっち」システム等とも連携し安全対策にも取り組みました。



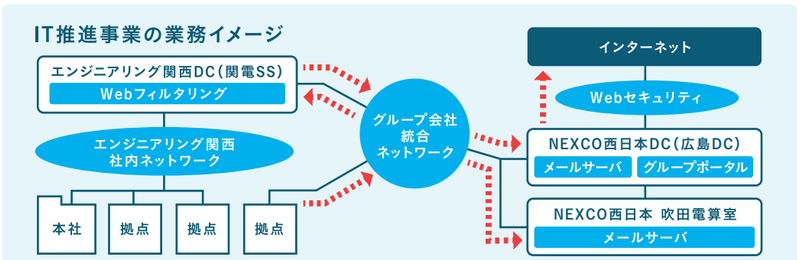
知識創造

各専門分野から寄せられた膨大なデータを蓄積するとともに、業務経験から得た貴重なノウハウを自社システムに結集。全員で情報共有ができる環境を整備することで、個々の技術力・発想力のレベルアップを促しています。

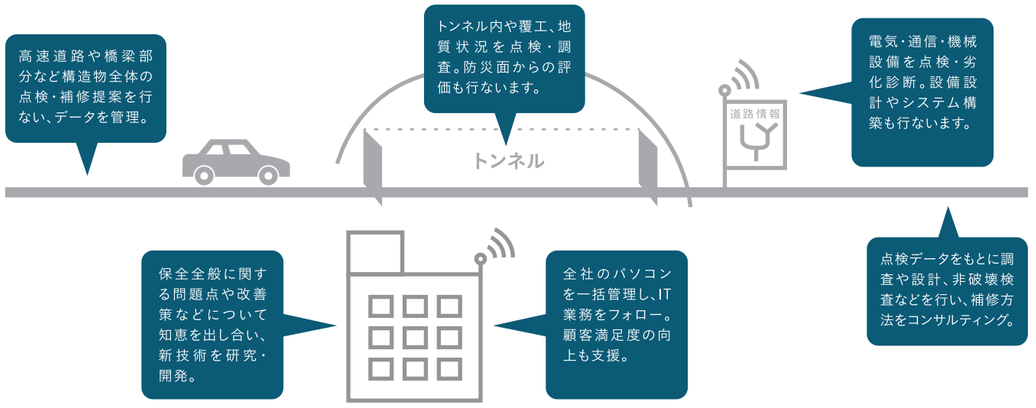


IT推進

社内における情報インフラ環境の構築・維持・管理を行い、迅速で安定した情報交換ができるよう取り組んでいます。自社サーバと社内WANでスピーディーな対応を実現し、情報システムの基盤を支えています。



点検から診断、補修、管理、技術開発まで トータルに取り組みながら安全・安心を提供しています。





SENIOR'S
VOICE
file.01

CIVIL ENGINEERING WORKS MAINTENANCE AND MANAGEMENT

土木系
点検管理

多角的な視点で結果を導き安全な走行を守り抜く

構造物の変状を見極め、最適な補修を提案する

高速道路の状態を常に見守り、50年先、100年先も、安全・安心・快適に利用できるよう維持管理を行うのが当社の役割。その中で、私はりんくう点検事務所に所属し、橋梁やトンネル、のり面といった構造物などの詳細な点検を行い、高速道路の安全を日々確認しています。

点検は、目で見て、触って、耳で聴いて確かめることが基本。打音点検や非破壊検査機器による亀裂箇所の計測・画像撮影など、さまざまな方法でアプローチをします。そこで、構造物に変状が認められれば、調査や補修対応を依頼します。その際に大切なのは、変状の緊急性を見極め、大きな事故を未然に防ぐことです。その判断力は経験とともに磨かれていくものですが、経験が浅くても必ずフォローをしてくれる先輩がいますし、社内には過去の変状事例が残されているので、私はそうしたデータと照らし合わせて自らの判断力を磨くようにしています。日々の点検で持ち帰ったデータを整理・登録し、最適な調査・補修方法の提案を行い、24時間365日の安全につなげています。

日々の点検は、事前に計画したスケジュールに沿って実施しますが、時には緊急で対応しなければならないこともあります。特に近年は、地震や台風、大雨など、自然災害が増えており、高速道路に被害が発生する恐れがある場合は、非常事態に備え待機し、状況によっては現場に駆けつけます。もちろん、そうした場合においても、やるべきことは高速道路の安全を確かめるための点検になります。「迅速かつ適正な判断」が求められますし、その判断がお客様の安全に直結するため、普段以上に責任の重さを感じます。だからこそ、自分たちの点検結果に基づき、高速道路が安全・快適で機能していること。最適な補修がなされたことへの達成感は大きく、高速道路が果たす役割である社会・経済の発展に貢献できていることを誇りに思っています。

DAISUKE TAKIMOTO

りんくう点検事務所　瀧本 大介　2014年入社　工業高校　都市工学科



1日のスケジュール

	出社	メールのチェックと作業内容の確認
9:00	朝礼	その日の作業予定を報告。その後、現場へ移動
10:00	現場到着	点検作業を開始
12:00	お昼休み	班のメンバーと現場周辺の飲食店で昼食
13:00	点検	午後の点検を開始
15:00	点検終了	点検箇所の見落としがないか確認し、帰社
16:00	データ整理	点検データの整理と進捗状況の確認
17:30	退社	勤務表を入力し、翌日の準備をして退社



背中を押してくれたのは、母校の先輩たちの活躍

都市工学を学んでいた高校で、これからの土木工事は新設ではなく維持管理・修繕が主流になると聞いていたため、高速道路の維持管理を担う当社に興味を持ちました。入社の決め手になったのは、卒業生が数多く活躍していて心強い環境であることと、同じ土木系の点検管理をしている先輩から「責任が大きく大変なこともあるけれど、その分やりがいもある」と聞いたことです。意欲さえあれば若いうちからいろいろな経験をさせてもらえるので、今は毎日新鮮な気持ちで働くことができています。

経験を重ね、知識を広げ、優れた技術者に

現場での点検作業はもちろんのこと、データの整理や報告書の作成に至るまで、すべてにおいて「振り返る」ことを心がけています。自分が責任を持った点検結果に基づき、高速道路が補修されたり、更新されたときの達成感がこの仕事の一番の魅力。今後は、点検だけでなく、施工管理等の幅広い業務を経験し、あらゆるニーズに対応できる技術者になりたいと思っています。また、自らの可能性を広げるために、さまざまな資格取得にも挑戦していくつもりです。



土木系
調査・検査

最新の技術と高度な分析で高速道路の未来を守る

問題を数値やデータから検討し、解決に導く

これからの土木事業は建設よりも維持管理が主体になっていくだろうと考えたとき、それを必要とする社会インフラとして最初に思い浮かんだのが高速道路でした。そこで、高速道路を軸に就活を進め、目に入ったのが当社。維持管理の基本となる点検だけでなく、調査や研究など、技術者として維持管理に関わることができる多様なフィールドがあると知り、入社を決めました。地図に残るような大きな仕事より、小さな問題でも数値やデータからコツコツと検討し、解決していく仕事のほうが私の性分に合っていると思ったことも理由の一つです。

現在は構造技術部に所属し、橋梁に発生した変状の進行具合や影響度、橋梁全体の健全度を、さまざまな計測機器を用いて計測し、調査・検討する技術（橋梁モニタリング技術）に関わる業務を担当しています。計測するといっても、データそのままでは維持管理の指標にはなりませんから、データに対してさまざまな角度から分析や解析を行い、その結果から、変状がいつから始まったものなのか、あとどのくらい大丈夫かなど、橋梁の状態を判断し、安全を守ることにつなげるのです。

最も印象に残っているのは、2016年、研修の出向先で経験した熊本地震における災害対応です。地震で被災した橋梁の復旧計画や、落橋した跨道橋と同形式の橋梁の補強設計を担当しました。当時、大災害で混乱する中、現場や支社・本社とNEXCO西日本グループが一丸となって復旧対応をし、グループとしての団結力と熱意を感じながら働きました。私自身は研修中ということもあり、先輩のフォローを受けながらではありましたが、被災地に直接貢献できたことで仕事への意識や使命感がさらに高まり、土木技術者として貴重な経験になったと感じています。これからも、社会に貢献できる技術者となるべく、精一杯努力を続けていくつもりです。



いつかきっと役に立つと信じて学び続けること

一番うれしいのは、自分の知識や技術が向上していることを実感できたとき。私たちは業務を通して日々さまざまなことを学びます。最初は訳がわからないように思えても、しばらくすると点と点がつながって線になるようにその意味がわかり、納得できる瞬間があるのです。ですから、たとえば、新しいことに挑戦し、そのときは学んでいることの意味がわからなくても、それをきちんとノートにメモし、いつかきっと役立つのだと信じて頑張り続けることが大切だと思います。





知識と技術を磨くことが社会貢献につながる

東日本大震災のときには、土木を学ぶ学生でありながら何もできることがなく、随分悔しい思いをしました。けれど、今は自らの知識と技術で被災地に直接貢献することができる。それが今の私の一番のモチベーションです。そのためにもまず、多くの知識と現場経験を積むことが大切。そして、いずれは、現場で発生している問題や課題に対して、技術的な根拠に基づいた考えのもと、現場ならではの状況もしっかり勘案した上で具体的な解決策を提示できるような技術者になれたらと思っています。

NATSUKI SUYAMA

土木事業本部　構造技術部　須山 夏樹　2014年入社　理工学部　都市システム工学科



1日のスケジュール

	出社	メールとその日のスケジュールを確認
9:00	朝礼	指差呼称や部署目標を確認し、その日の行動予定を全員で共有
9:10	業務調整	今後の工程について、他部署や他社と調整
12:00	お昼休み	愛妻弁当を食べ、午後の作業効率を上げるため、昼寝
13:00	資料作成	打合せや会議に必要な資料を作成
15:30	データ整理	計測データの整理、分析など
17:30	退社	翌日のスケジュールを確認し、帰宅



SENIOR'S
VOICE
file.03

CIVIL ENGINEERING WORKS CONSTRUCTION MANAGEMENT

土木系
施工管理

補修工事が円滑に進むよう工程・品質・安全を管理する

現場と机上で学んだことが業務につながる喜び

大学時代は、主に自然災害のメカニズムや避難行動の検証、防災教育のあり方などを勉強していました。その中の講義で、阪神・淡路大震災で高速道路が倒壊した話や豪雨災害でのり面が崩壊した話を何度も聞いており、高速道路の安全・安心を守るため、防災の視点から何か役に立てることがあるのでは？と考えました。そんな時、高速道路は災害時に緊急輸送路となると知り、災害に強い道づくりに貢献したいと思い、この業界を選びました。
現在は、神戸事務所に所属し、高速道路を維持管理するための補修工事や改良工事の管理監督をしています。仕事内容はまず、点検データをもとに、今年度補修を行う箇所の数量根拠の作成や図面の作成・積算など、工事の発注に必要な準備を整えます。そして、受注者が決定したら、関係各所とやり取りをしながら、工期内に工事がしゅん功できるよう工程管理を行います。使用材料や施工方法などが逸脱していないかを確認する品質管理や、施工状況や作業内容の確認、現場の安全指導も、私たち施工管理の役割です。補修工事といっても、橋梁、のり面、トンネル、舗装など、さまざまな種類があり、管理を行う際にはそれぞれの専門知識が必要です。私は学生時代に土木の勉強をしていたわけではないので新たに学ぶことも多く、大変なこともありますが、今は現場と机上の両輪で知識を深め、実際の業務につなげていけることにやりがいを感じる毎日です。

私たちの生活と経済を支えてきた高速道路も、近年は地震や豪雨、経年劣化などにより、多くの場所で変状が発生しています。ですから、補修や改良工事は重要な課題であり、私自身、一日も早く一人前の土木技術者となって、高速道路とそれに関わる人々の安全を守りたいと思っています。そのためにも、今後は現場で経験を積みながら、さまざまな資格も取得していくつもりです。

MOE SAEKI

神戸事務所　佐伯 萌　2016年入社　社会安全研究科　防災・減災コース



1日のスケジュール

	出社	メールをチェックし、その日の工程を確認
9:00	班ミーティング	メンバーの行動予定確認、情報共有
9:30	打合せ	施工業者と打合せ
12:00	お昼休み	昼食は事務所内でお弁当
13:00	事務作業	打合せに関する書類整理、業者から提出された書類の確認
15:00	立会検査	施工現場に車で移動し、立会検査
17:30	退社	明日の行動予定を確認し、退社



理由や根拠を確認し慎重に仕事を進める

私が今、担当しているトンネル補修工事の現場代理人は、NEXCO西日本の業務に携わることが初めてで、私自身も施工管理一年目ということもあり、互いに教え、教わり合いながら仕事をしている状況です。ですから、施工が関係法令や要領から逸脱しないためにも、書類を提出する際には「何故」それが必要なのかを深く考えるよう慎重に仕事を進めています。試行錯誤ではありますが「一緒に前に進んでいる」「チームワークも上手く機能している」と思います。

防災の知識を活かした私らしいキャリアを築く

今は一人前の土木技術者になることで精一杯の毎日ですが、いずれはBCP（災害や事故など不測の事態を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめた計画）の策定に携わるなど、防災の視点から会社に貢献したいという思いもあります。この会社には社員の特性に対応したキャリアパスイメージがあり、少し先の話にはなりますが、将来的には防災を専門に勉強してきた私らしい働き方、会社への貢献ができればと思っています。



電気系
点検管理

事前の準備と即時対応で守る安全で快適な高速道路

大切なのは正確さと迅速さ電気設備の維持管理

高速道路には、照明をはじめ、渋滞や事故など、さまざまな情報を伝える情報板、速度制限の標識など、安全な走行をサポートするための設備があらゆる場所に設置されています。私は、それらすべてに電力を供給する受配電設備のメンテナンスを担当しています。たとえば、照明が消えたり、情報板の文字が表示されなくなったりすると、安全な走行の妨げになってしまうため、そうしたトラブルが発生しないよう普段から各設備を点検し、維持管理に努めることが大切です。

2018年3月に神戸～高槻間が全線開通した新名神高速道路も、私たちが点検を担当する高速道路の一つです。この新名神には、トンネル内の定速走行をサポートする「ペースメーカーライト」や、トンネル内でトラブルが発生した際、照明設備に併設された走行レーンを移動して映像を撮影する「自走式ロボットカメラ」など、日本初の最新設備が導入されています。そうした新しい設備については、点検の内容はもちろん、点検結果を記載する点検表から報告書まで、一から作っていかなければなりません。初期点検なども含めるとやるべきことが非常に多く、今はすべてを効率よく進めていくことに力を注ぐ毎日です。

設備故障が発生したときには現場に駆けつけ、原因を究明し、復旧するのも私たちの役目。台風の影響で高速道路付近で土砂崩れが起こったときには、他のグループ会社と協力し、状況把握できるように監視カメラを取り付けに行ったこともありました。そうした日々の業務の中で私が心がけているのは、すべてにおいて「やり遂げる」という諦めない気持ちを持つこと。ほんの少しの気の緩みが大きな事故につながりかねないということを常に意識し、妥協することなくすべての業務に取り組むようにしています。そうしてトラブルを未然に防ぎ、安全で快適な高速道路を維持することが、私にとってのやりがいです。



SENIOR'S
VOICE
file.04

後輩を指導することで変化した仕事への責任感や取り組み方

点検はチームを組んで行います。これまでは先輩とチームを組むことが多かったのですが、最近では後輩とチームを組むことも増えてきました。自分がチームを引っ張り、指導をしていく立場になって、仕事に対する責任感や取り組み方が随分変わった気がします。具体的には、自分がきちんと理解できていないと質問に答えることができないので、下調べや準備により時間をかけるようになりました。教えたことが出来るようになっているなど、後輩たちの成長が見えると嬉しいということにも気づきました。





資格を取得することは、自らの目標に近づく手段

入社してから第二種電気工事士、危険物取扱者、高所作業車、小型移動式クレーン、中型自動車免許など、さまざまな資格を取得し、現在は第一種電気工事士の資格に挑戦中です。一人で勉強しているときは苦戦しましたが、最近ではみんなで勉強するようになり、互いに教え合い、競い合うことで手応えを感じられるようになりました。資格を取ることで業務への理解も深まりますし、より技術力を上げて成長したいという目標にも近づけると思って頑張っています。

HIROTAKA MORITA

神戸事務所　森田 寛隆　2015年入社　工業高校　電気科



1日のスケジュール

	出社	神戸事務所までマイカーで通勤
9:00	朝礼	その日のスケジュール、伝達事項などを確認
10:00	点検	パトロールカーで現場へ向かい、設備に異常がないか点検
12:00	お昼休み	事務所に戻って昼食
13:00	点検	現場を移動しながら、点検と故障箇所の復旧
17:00	データ整理	点検データの入力、報告書作成
17:30	退社	明日のスケジュールを確認し、必要な物を準備して帰宅。 待機当番の日は帰宅後も緊急呼び出し対応に備える



SENIOR'S
VOICE
file.05

EQUIPMENT MAINTENANCE AND MANAGEMENT

MASANORI WASHINO

京都事務所　鷲野 正典　2012年入社　工学部　電気電子システム工学科



1日のスケジュール

	出社	メールチェックなど
9:00	ミーティング	その日の業務確認と情報の共有
9:30	現場作業	最初の現場に赴き、点検業務を開始
12:00	お昼休み	現場や作業車の中で昼食
13:00	現場作業	現場を移動しながら、点検業務と故障対応
16:30	データ整理	点検データの入力、報告書作成
17:00	ミーティング	その日の報告と翌日の作業内容を確認
17:30	退社	待機当番の日は、緊急で呼び出されることも

電気系
点検管理

技術力の向上に努め
高速道路の安全·安心に貢献する

計画性と柔軟性を持って
あらゆる業務に携わる

大学で電気電子システムを学んだ私は、高速道路にある幅広い電気設備、そのすべてに携わることができる当社の保守・点検業務に興味を持ちました。入社後は、施設技術部に配属となり、受電所（電気室）から各設備への配電ルートを設計する電線路設計を約二年担当。その後、第二神明事務所、京都事務所と異動し、それぞれの事務所ではいずれも電気設備の保守・点検業務を担っています。高速道路には受配電設備、自家発電設備、照明設備や情報板、非常用設備など、多種多様な設備があり、それらの定期点検を計画的に行いながら、突発的なトラブルで故障が発生した際にはその緊急対応にも当たる、それが保守・点検業務の具体的な内容です。受配電設備に関しては、年に一回、すべての電気を止めて点検する日を設けています。といっても、高速道路上にある設備は維持しなければならず、すべての送電を仮設発電機に切り替えて点検作業を行います。当然緊張もしますし、一日がかりの大きな点検ですので、すべてトラブルなく終えられた瞬間はホッとするような嬉しさと達成感でいっぱいになります。

点検や故障対応などはチームで進めるものですし、上司や先輩も親身にサポートしてくれます。また情報板など高所での作業もあり、照明設備は高いものだと20mを超えるものもあり、安全対策を万全に行って作業します。定期的な研修の実施、最新の安全装置なども導入されていますから必要以上に心配することはありませんが、人によっては慣れるまで少し時間がかかるかもしれませんね。

設備は必ず古くなり、今後は、これまでの知識や経験では対応できないトラブルが発生することも十分考えられます。ですから、時代や状況に合わせてその都度学び、引き続き高速道路の安全を守るために尽くしていきたいと思っています。



憧れの先輩の強い信念と
巧みな指導方法を継承

第二神明事務所に異動し、最初に指導してくれた先輩が今も憧れ。その先輩は、どんなトラブルがあっても「何とかして直す」という強い信念を持ち、最後まで追求するタイプの人。知識や経験も豊富で、その先輩と同じチームだと安心できる、そんな頼れる存在でした。指導もとても丁寧で、何か質問をされてもすぐに答えるのではなく、まずはヒントを与え、後輩たちが自分で考えることをとても大切にされていました。後輩指導を行う立場になった今、私もその方法で指導をするようにしています。

あせらず経験を重ねること
それが成長への一番の近道

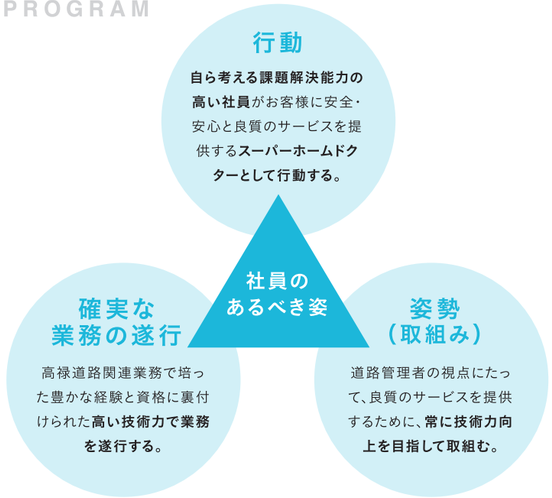
点検も故障対応も、一人でできる仕事ではなく、それぞれの知識と経験を掛け合わせ、チームで協力して取り組んでいく仕事です。現場のメンバーだけでは直せなかった故障が、ベテランの先輩に電話で指導を仰ぎ、教わった通りの方法で進めたら直せたということもよくあります。自分の力不足を感じることもありますが、今はあせらず、地道に経験を重ねていくことが大切。資格取得などにも積極的に挑戦し、周囲のメンバーを助け、支えられるような力を身につけたいと思っています。



研修制度 TRAINING PROGRAM

高い技術力と強い意志を持つ人材を育成しています

当社では教育研修を企画立案する専門班を設け、充実した教育研修を行なっています。「自ら考え行動できる」強い意志を持った人材育成に力を注ぎ、さまざまな研修を重ねることで実務能力の強化を図っています。



新入社員研修

入社後、全新入社員を対象とした、新入社員研修を行います。全体研修にて社会人としての心構えや会社概要、安全衛生教育などを学びます。
新入社員研修は4月入社後、約3ヶ月程度の期間にて「現場実務研修」「集合研修（現場実務研修のフォローアップ）」を行っており、若手技術者の即戦力化に向けた取組みとしています。

現場実務研修

新入社員研修の一環として、実際の現場にて業務の体験をしながら、当社の業務をより深く感じていただくプログラムを実施しています。

土木分野　点検業務、保全管理業務、調査設計業務など

施設分野　設備保守点検業務、保全管理業務、制御管理業務、調査設計業務など

OJT研修

各配属先にて、先輩社員などにより日々の業務を実施しながらのOJT研修を行います。
OJT研修では、個人のスキルに応じたプログラムや期間を設けることとしており、現場技術者としての育成に重点を置いています。

点検員養成研修

若手技術者を対象に座学も含めて点検業務に係る基礎知識を身に付ける研修を実施します。また、土木・施設分野に限らずすべての社員が点検員となるべく研修についても実施しています。

その他研修

道路構造物の供試体や高速道路設備の実機を使用した、より実践に近い環境での研修プログラムを設けています。
その他、コミュニケーション能力の向上や自主性を養うための研修プログラムも実施しています。







教育計画 PROGRAM of EDUCATION

エキスパートとして成長していける充実のプログラム

内部講師、外部講師による社内講習を開催し、効果的な資格取得支援を実施。資格に裏付けされた確かな技術力が身につくプログラムを整え、社員の能力向上とスキルアップを応援しています。

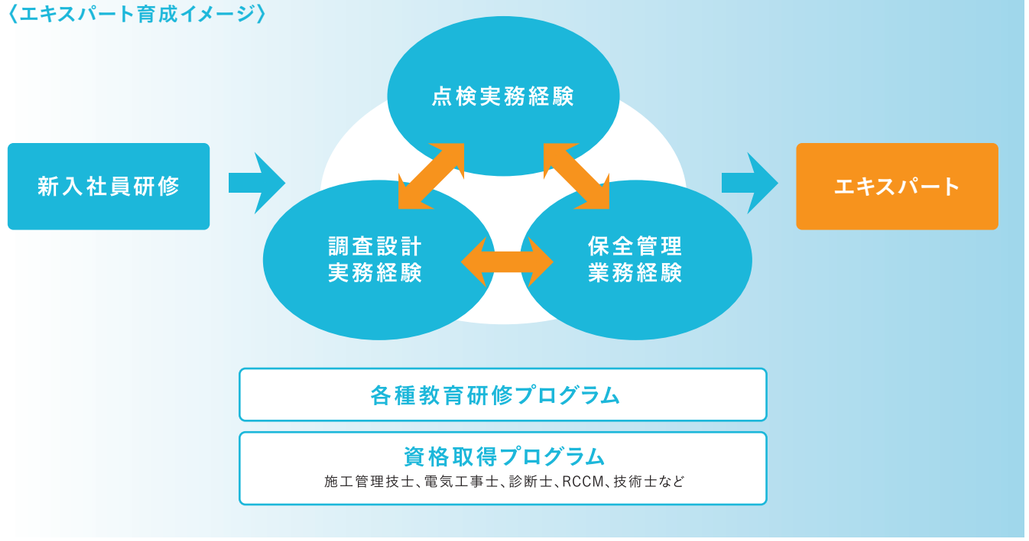
資格取得支援

当社の掲げる「スーパーホームドクター」に相応しい資格取得に向け、社内講習会の実施や自己啓発援助などの支援を行っています。

エキスパート育成計画

各分野のエキスパートを育成するための育成計画に基づいた社員教育を行っています。

〈エキスパート育成イメージ〉



働きやすく働き甲斐のある職場づくりへ

公平でやれば報われる人事制度の改善や、雇用制度等の拡充、職場環境の整備により、社員のモチベーションを向上させ、働き甲斐のある職場をつくります!

社員満足度の向上に向けた取組み

人事評価制度の改善や、社員の意識やニーズ調査を実施し、社員の納得性や社員満足度の向上に向けた取り組みを行っています。

健康管理の推進

社員の心身の健康増進へ向けた健康診断や健康管理体制の充実、さらに研修・講習会などメンタルヘルスマネジメントの理解を深める取組みを行っています。

雇用制度の整備

時間外労働の削減に向けた、管理職層の意識改革と統一を目的とした研修の実施や、時間外対象者の教育・啓発に加えて、障害者雇用の促進にも力を入れています。